学校番号	302

平成 31 年度　音楽科

教科	音楽	科目	音楽史	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の音楽２（教育芸術社）						
副教材等	音楽史を学ぶ　（教育芸術社）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽を専門的に学ぶ音楽科生徒にとってそのクラシック音楽が発展してきた歴史を知ることはとても重要である。なぜその時代にそのような音楽が生まれてきて今もなお演奏されているのか、作曲家どうしがどのような影響を与えあっているのかなどを学び、自分の演奏に活かしてほしいと考えています。

２ 学習の到達目標

我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解を深め、多様な音楽の文化的価値をとらえる能力を養う。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	西洋音楽・日本音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し自らの演奏にも活かそうとする。	音楽の発展してきた歴史を分析・考察し各時代における楽曲を正しく理解し演奏できる能力を身につけている。	西洋音楽・日本音楽の歴史についての基本的な事柄に関する理解に基づいて音楽の諸要素を知覚し、それらの働きを感受しながら価値判断し、その音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	ワークシート レポート	定期テスト ワークシート	定期テスト ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	c	d		
前期	バロックの音楽（後半）	・ヴィヴァルディの作品の特徴 ・バッハとヘンデルの作品の特徴 ・バロック後半の作曲家たちの特徴	○ ○	 ○	○ ○	a:バロックの音楽（後半）の歴史とその前後の音楽とのつながりを意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。 c:事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:バロックの音楽（後半）の歴史とその前後の音楽とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
	古典派の音楽(前半)	・器楽の興隆とオーケストラの発展 ・シュターミッツによるマンハイム楽派 ・ハイドンの功績	○	 ○	 ○ ○	a:古典派の音楽（前半）の歴史とその前後の音楽とのつながりを意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。 c:事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:古典派の音楽（前半）の歴史とその前後の音楽とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート
後期	古典派の音楽(後半)	・モーツァルトの作品と生涯 ・ベートーヴェンの作品と生涯 ・古典主義音楽の確立とその意義	 ○	○ ○	○ ○	a:古典派の音楽（後半）の歴史とその前後の音楽とのつながりを意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。 c:事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:古典派の音楽（後半）の歴史とその前後の音楽とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート

	ロマン派の始まり	・ロマン派の時代とは ・ロマン派初期の歌劇作品 ・ロマン派初期の器楽作品	○	○	○ ○	a:ロマン派初期の歴史とその前後の音楽とのつながりを意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。 c:事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:ロマン派初期の歴史とその前後の音楽とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート